

弁理士試験早期合格のための格言集

- 一、基本書の読み込みを重視すること。
- 一、勉強の題材を限定して揃えること。条文・青本（逐条解説）・改正本・吉藤特許法概説・高田意匠法・レジメ・過去問・審査基準（特・実・意・商）・四法対照これだけでいい。これ以外の書物は原則不要。これ以外の勉強材料を増やすことは時間・金の無駄に終わることが多い。
- 一、青本の読み方。まず、条文自体を2回読む。その後、解説を読む。いきなり解説を読んでもダメ。条文2回・解説1回、常にこの読み方を守る。解説よりも条文のほうが重要。
- 一、過去問短答の解き方。題意把握・条文操作・択一決定、必ずこの3段階の順序を守る。この3段階を必ずノートに書きながら解くこと。過去問の題意把握・知識の吐き出し・択一決定では本試験で通用しない。その場で条文操作を意識して行うことが肝要。
- 一、条文の読み方（素読の仕方）。短答問を自分の頭のなかで作りながら読んでいくことが重要。単なる棒読みはほとんど意味なし。主体・客体・手続・時期・効果（can か must か）を意識しながら分節して読んでいく。過去問短答の反復練習と条文の素読とのリンクが鍵！
- 一、条文の素読は、特（1条～204条）・実（1条～64条）・意（1条～77条）・商（1条～85条）・国（1条～21条）・パリ（1条～30条）・PCT（前文～69条）・マドプロ（1条～16条）・不競法（1条～22条）だけを繰り返し行うことが肝要。法律の下位規範である規則や審査基準の素読は不要。特に、PCT規則や著作権法の素読は時間がかかる割に益少ない。
- 一、受験予備校の作成した短答問を解くことは厳禁！完全な時間の無駄に終わることが多い。本試験短答問と受験予備校の作成した短答問とは質が異なる。ひたすら、本試験短答問だけを解き続けることが肝要。
- 一、弁理士試験合格者の指導を直接受けること。自分だけの勉強では回り道することが多い。
- 一、レジメは答案構成や内容の整理に必須！既存のレジメを出発点にして加筆修正しながら自分の納得できるレジメを作っていくという姿勢が重要。
- 一、論文作成は答案構成後、当たり前のことを当たり前丁寧に書いていくことが重要。他人とは異なる自分だけの文章を書こうとすることは厳禁。答えは既に決まっている。既に決まっている答えにいかに関わらせるか、が重要。
- 一、合格に必要な勉強量：初心者から始めて1日3時間の勉強で3年、1日5、6時間の勉強で2年、1日9時間以上の勉強で1年。従来より易しくなっているとはいえ、弁理士試験を甘く見てはいけない。
- 一、一般常識が一番重要！常識を重んじながら受験勉強を進めていく。

BF ベストフレンド弁理士試験受験ゼミナール理事長・弁理士・講師：上田 育弘